

肉用素豚安定生産技術確立に関する試験

佐野幹夫・宮野 茂・中林大治郎・荒岳 義

(大分県農業技術センター)

SANO, M., MIYANO, S., NAKABAYASHI, D. and ARATAKE, T.
Studies on the Better Method of Producing Growing-finishing Swine.

1. 目的

肉用素豚生産の効率向上のため、ランドレースの純粋種による系統間交配母豚を用いることにより肉用素豚生産用母豚としての強健性とすぐれた繁殖成績を期待し、これにハンブシャーを用いた雑種生産をすることにより、産肉性の高い、形質の均一化した肉用素豚の量産を図る。

2. 試験方法

- (1)試験期間、昭和45年4月～昭和48年3月
- (2)ランドレース種L(E)系, L(H)系各5頭を供して、L(E)系×L(H)系, L(H)系×L(E)系各10頭の系統間交配母豚を生産し、これらの強健性、繁殖、哺育成績の調査をする。〔注L(ランドレース)^(B)イギリスランドレース^(H)オランダランドレース〕
- (3)雑種豚の産肉性に関する調査
試験区…系統間交配母豚にハンブシャー種を交配し、生産されたL・Hの中から10組40頭を用いる。
対照区…当場の産肉能力検定豚をあてる。

1腹4頭(♀2, ♂2)不断給餌, 群飼。

3. 試験結果

1)繁殖成績

1 産目		分 娩 時			3 週 時			育成率
系統	腹数	1腹頭数	1腹総体重	平均体重	1腹頭数	1腹総体重	平均体重	
L(E・H)	9	8.4頭 ±2.94	12.14kg ±1.66	1.36kg ±2.70	7.6頭 ±2.49	42.45kg ±9.74	6.01kg ±1.09	90.5% ±6.73
L(H・E)	10	11.1 ±2.11	15.23 ±2.71	1.37 ±0.58	10.5 ±2.46	50.7 ±5.03	4.8 ±0.67	94.7 ±5.84
L(E)	6	11.6 ±3.65	14.41 ±3.54	1.53 ±0.16	8.5 ±2.5	40.48 ±7.72	5.12 ±1.48	73.4 ±9.88
L(H)	4	6.75 ±1.09	9.83 ±2.75	1.46 ±0.35	4.5 ±2.06	21.5 ±9.87	4.82 ±0.16	66.6 ±19.4

※L(E・H)を母乳のため1頭とす

2 産目		分 娩 時			3 週 時			育成率
系統	腹数	1腹頭数	1腹総体重	平均体重	1腹頭数	1腹総体重	平均体重	
L(E・H)	5	11.4頭 ±5.84	19.6kg ±3.70	1.46kg ±0.1	10.2頭 ±4.88	47.3kg ±1.72	4.6kg ±1.2	89.4% ±9.24
L(H・E)	6	11.3 ±2.96	16.7 ±3.98	1.46 ±0.13	9.8 ±2.48	43.5 ±6.85	4.4 ±1.06	86.8 ±11.46
L(E)	6	11.0 ±3.21	17.58 ±3.7	1.64 ±0.21	10.0 ±2.52	54.25 ±6.12	5.55 ±0.64	90.9 ±7.9
L(H)	4	8.0 ±3.76	11.29 ±3.76	1.39 ±0.04	7.5 ±2.69	39.78 ±13.86	5.29 ±0.6	93.8 ±11.17

繁殖育成試験に用いた20頭の系統間交配母豚の1産目と2産目(設計に基いて母豚数を半減)の成績を表に示した。その結果1産目における産子数ではL・(H・E)が11.1頭, L・(E・H)が8.4頭であった。純粋種ではイギリス系が11.6頭であったが、オランダ系は6.75頭で少なかった。また2産目における産子数は試験区はほぼ11頭であったがオランダ系はやや少なかった。1産目における純粋種の育成率が悪かったのは他の分娩豚との分娩が重なったため、母子豚の豚房移動を頻繁にしたためと思われる。

2)雑種豚の産肉性

90kg到達日齢, 一日平均増体量, 飼料要求率はおおむね純粋種(イギリスランドレース)より優れた成績を示しているが、背腰長IIではハンブシャー種を交配したためやや短かった。また、平均背脂肪, ロース断面積, ハムの割合, 赤肉歩留, 肉質等はハンブシャー種を交配した効果が出ているものと思われる。

雑種豚の産肉性に関する調査

系統	産目	所 要 日 数				一 日 増 量	飼 料 要 求 率	背 脂 厚	口 腔 長	ハ ム 長	ハ ム 割 合	赤 肉 歩 留	肉 質
		20-50	50-90	90-120	120-90								
L(E・H)	×H	48.2	54.7	102.1	681.6	3.55	2.8	68.5	16.7	32.8	66.9	60.25	78.5
		±3.24	±1.88	±4.51	±30.74	±0.21	±0.25	±1.98	±0.76	±1.63	±0.87	±3.36	±1.34
L(H・E)	×H	46.1	56.2	102.4	687.7	3.69	2.7	68.3	18.5	32.9	67.4	62.29	78.2
		±2.50	±5.57	±7.98	±49.44	±0.29	±0.14	±1.05	±1.17	±1.18	±2.83	±1.99	
L(E)	20	54.5	64.9	119.4	588.2	3.87	2.6	73.0	16.0	32.4	67.2	58.95	77.2
		±3.78	±6.84	±6.39	±31.76	±0.13	±0.08	±0.34	±0.95	±0.75	±0.58	±2.86	±1.75

考 察

繁殖成績において1産目のL・(E・H)母豚の1腹頭数が少なかったのは供試豚のうち4頭が120kg未満で交配したためその影響が出ているものと思われるがその他の系統間母豚は1, 2産目とも11頭台の産子数を得た。産肉性においては生産された肉用素豚L・Hは生後160日前後で90kgに到達し雑種豚としての特性が出ているものと思われる。